

# 爪の変形

気がかりなら受診を

クボタ皮膚科医院

窪田 卓 先生

皆さんの手足に生えている爪は、毛髪などと同様、皮膚の付属器の一つです。最近ではネイルアートなど、自己表現の手段としても重要なものです。この爪に異常があると、あまり格好のいいものではありません。しかし、爪に変形が生じた時には、さまざまな疾患の可能性が考えられるため、注意が必要です。この爪の変形について説明します。

**色の変化**＝爪の色に異常が出ることがあります。爪が緑色に変色したときには細菌感染が疑われます。また、ある種の内服薬によっては、爪が黄色や褐色に染まることもあります。爪に白癬菌(水虫)が感染すると、白く濁った爪になります。これについては後述します。もっとも恐ろしいのは、爪の根本や爪の下に生じる悪性黒色腫という皮膚癌です。比較的まれな皮膚癌ですが、爪に黒い線が現れ、急に広がったりする場合には注意が必要です。

**形の変化**＝爪の形に変化が起きる場合、原因と症状はさまざまです。爪の周囲に手荒れなどの皮膚炎が生じた時、凹んだ爪が生えたりします。足では、きつい靴を履いていると、爪が内側に湾曲し、いわゆる「巻き爪」になります。これらの治療は、原因を取り除くことが必要になります。

時に、アトピー性皮膚炎や乾癬といった全身性の皮膚病には、爪の陥凹などの変形が併発することがあります

また、全身性の病気としては、貧血や循環障害、甲状腺の異常などがあると、爪が平らに変形することがあります。

**爪の水虫**＝最近、テレビや新聞などで時々見かけるのが爪の水虫です。手や足の爪が白く濁ったり、厚くなったりします。ただし、高齢者の爪や、外傷のあとなど、白癬菌が原因ではない場合も多いです。診断には白癬菌の検査が必要です。治療には内服薬がよく使われます。しかし、副作用もありますので、詳しくは皮膚科医に相談してください。

爪の変形と一口に言っても、病気ではなく怪我や老化からなる場合もあります。もし爪に気がかりな異常がありましたら、皮膚科専門医を受診してみてください。